

第 1 9 回
近畿地区中学校修学旅行研究大会
研 究 要 録

平成16年11月18日（木）
午後1時 ～ 4時
西宮市「プレラにしのみや」

主 催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会
京都府教育委員会 滋賀県教育委員会
奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会
西宮市教育委員会

協 賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

目 次

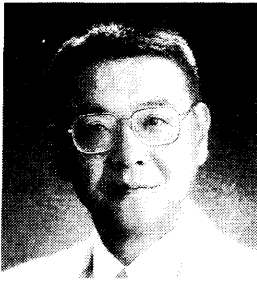
1	大会要項	-----	1
2	挨拶		
	近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 （兵庫県川西市立多田中学校長）	野原 孝 -----	2
	財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中西 朗 -----	3
3	研究発表		
	① 「沖縄への修学旅行」 —平和学習を基盤とした修学旅行の取り組み— 大阪府美原町立美原中学校 安田 昭彦 教諭	-----	4
	② 「北海道への修学旅行」 ～総合的な学習（福祉）を深める～ 兵庫県安富町立安富中学校 志水 和司 教諭	-----	19
4	研究協議	-----	41
5	講 評 兵庫県教育委員会義務教育課 西田健次郎 指導主事	-----	42
6	近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ（参考資料）	-----	43

大会要項

- 1 主 催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会
- 2 後 援 ・兵庫県教育委員会 ・大阪府教育委員会 ・京都府教育委員会
・滋賀県教育委員会 ・奈良県教育委員会 ・和歌山県教育委員会
・西宮市教育委員会
- 3 協 賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
- 4 研究テーマ 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」
- 5 日 時 平成16年11月18日(木)
受付 午後12時30分 開会 午後1時 閉会 午後4時
- 6 会 場 兵庫県西宮市 「プレラにしのみや」 5F プレラホール
(阪急神戸線 阪急西宮北口駅下車 徒歩約2分)
西宮市高松町4-8 TEL 0798-64-9485

7 日 程

13:00	会長 開会挨拶 理事長 開会挨拶 来賓祝辞	(1) 開会挨拶 ・近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 野原 孝 (兵庫県川西市立多田中学校長) ・財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中西 朗
13:10	研 究 発 表	(2) 来賓祝辞 ・兵庫県教育委員会義務教育課 重松 司郎課長
14:30	① 大阪府 美原中学校 ② 兵庫県 安富中学校	(3) 研究発表 ① 大阪府美原町立美原中学校 安田 昭彦教諭 「沖縄への修学旅行」 — 平和学習を基盤とした修学旅行の取り組み — ② 兵庫県安富町立安富中学校 志水 和司教諭 「北海道への修学旅行」 — 総合的な学習(福祉)を深める —
14:40	休 憩	
15:30	研 究 協 議	(4) 研究協議 司会者 近畿地区公立中学校修学旅行委員会運営委員 (奈良県生駒市立緑ヶ丘中学校) 酒見 宗良校長
15:50	講 評	(5) 講 評 兵庫県教育委員会義務教育課 西田健次郎 指導主事
16:00	感謝状 贈呈 副会長 閉会挨拶	(6) 閉会挨拶 近畿地区公立中学校修学旅行委員会副会長 (和歌山県南部町立南部中学校) 望月 和夫校長



修学旅行研究大会開催にあたって

近畿地区公立中学校修学旅行委員会

会長 野 原 孝

(川西市立多田中学校長)

若さというものには、人や物に対する強い憧れと不安、愛への憧憬と嫌悪など、実にアンバランスに配列されていて、なかなかその時を過ぎってしまった我々大人には、その不安定な心理状態を思いだし、理解の範疇に置いていくことが難しくなっているように思います。

長崎の学校で起きた小学校6年生の少女による同級生殺人は、ネット上でのやり取りが現実世界を飛び越えて、画面に現れる文字によって感情だけが増幅され、現実と妄想の狭間に殺人が起きてしまった辛い事件のように思います。ただその妄想とも現実とも判断の付かない中での行動が何故、実行されたのか、「死ぬ」と思う思いは誰にでもあるが、現実の行動に何故少女には、ストップがかからなかったのか。

似たような事件、突飛と思われる現象が学校という場所、青少年という年代に起こり、今、日本中で子供達の体験、経験の大切さが大きく叫ばれ、種々な取り組みがなされてきています。

自然とのかかわり、人とかかわりなどを取り入れ、体験することで初めて培われるべき感性が現実社会を生き抜く「生きる力」として重要であると見直されてきています。

教育課程の中に「総合的な学習」が新しく設けられて以来、修学旅行のあり方が一変し、「体験的な学習」の重要な位置を占めるようになりました。

明確な目標設定、行動計画、その為の事前準備と、大変体系的になりました。

修学旅行という日本独自で発展を遂げてきた学校文化は、その時代その時代の要請を受け、姿を変えてきましたが、しかし生徒側から修学旅行を見た時、それは少し違って写っているのではないのでしょうか

まず、親ではない、友人同級生と家を離れる、自立の臭いが流れているのではないのでしょうか

知らない空の下に身を置く、憧れがあるのではないのでしょうか

仲間同士でふれあい、旅先でのふれあい、新しい発見と体験への強い期待があるのではないのでしょうか、

そのことをも含め、すべてが修学旅行ではないかと思えます。

学校にとっても、生徒達にとっても、中学校3年間の最大の行事であるこの修学旅行が少しでも多くの子供達に、今後ポジティブなエネルギーとなり心に残ってくれることを願っています。

「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」のテーマのもと、生徒達の思いに沿いながら、時代の要請に応えられるよう研究を進めて参りたいと思えます。

本日は近畿地区中学校修学旅行研究大会に出席いただきまして誠にありがとうございます。今後とも当委員会の活動に、ご理解、ご協力を頂きますよう御願いをし、挨拶とさせていただきます。



修学旅行研究大会の開催にあたって

財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 中 西 朗

各方面のご支援を受け、ここに、第19回近畿地区中学校修学旅行研究大会が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。この開催にあたり、近畿地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、近畿各府県教育委員会、西宮市教育委員会のお力添えに心から御礼申し上げます。

今、社会が大きく変化しようとしています、教育の本質は変わりません。そこに子どもたちがいて、その子どもたち一人一人に将来に向けて生き抜く力を獲得させることは教育の不易なものといえましょう。全国津々浦々、同一の学習指導要領で示された内容で教育が行われています。そこにおける学校の創意ある教育とは、内容そのものではありません。その教育の実践に、いかなる価値付けをするかということになります。子どもたちに「いかなる力を与えるのか」、「いかに一人一人の課題を解決するのか」ということが大切になります。企業的に言うと、「ソリューション経営」となるのでしょうか。

そのために、何を(WHAT)なぜ(WHY)実施するのかという吟味が必要です。その上にたって、方法論(HOW)が決まってくるのでしょうか。教育の現状をしてみると、方法論が先行してしまい、子どもの教育にとって一番大切な価値付けの基本となる、教育愛、教育理念、教育心情等々が失われつつあります。これがあるからこそ、教育の地域性が生まれ、学校の伝統として息づき、学校の創意ある教育展開が可能となります。

修学旅行も、3年間という中学校生活において重要な役割を持っています。現在、旅行地、交通手段等々が大きく変化しています。このときに、先生方の修学旅行への想いがより深くなっています。今回の研究発表は、北海道、沖縄と旅行地も新しい広がりを見せています。そして、「福祉」「平和」ということがWHAT・WHYの重要なコンセプトとなっています。この実践は、私どもに多くの示唆を与えてくれることでしょう。ご努力に敬意と感謝を申し上げます。

研 究 発 表 ①

「沖縄への修学旅行」

— 平和学習を基盤とした修学旅行の取り組み —

大阪府美原町立美原中学校

安田 昭彦教諭

1	はじめに	-----	4
2	平和学習の取り組み	-----	6
3	「沖縄」修学旅行の取り組み	-----	7
4	取り組みの経過	-----	10
5	実施後の取り組み	-----	12
6	今後の課題	-----	14
7	資料1	-----	15
8	資料2	-----	17

沖縄への修学旅行

—平和学習を基盤とした修学旅行の取り組み—

大阪府美原町立美原中学校

教諭 安田 昭彦

1. はじめに

① 学校および地域の概要

地理的には、大阪府の南東部、堺市の東側のあたりに位置し、東に生駒・二上・金剛・葛城の山々が連なり、大阪湾からの西風が吹く温暖な平野地域である。校区は、昭和33年、美原町制発足以来の農村地域であったが、近年小規模な宅地開発により、新興住宅地と旧村の混在した地域と変わってきた。

鉄軌道がないために幹線道路が発達し、いくつかの自動車道にはアクセスも便利で、流通関係の企業も多く移転してきた。そのため、コンビニや商業施設も増え、都会的な便利さと昔ながらの農村風景が妙に溶け合った町であると考ええる。

美原町は人口約4万、1万5千世帯で、古くは渡来人が鋳物技術を伝えた、「河内鋳物師」の歴史の町で、発掘遺跡も数多い。来年2月には堺市と合併の予定もある。

創立以来47年目の本校は、昭和61年度をピークに生徒数も千人を超していたが、ここ数年15学級500人弱でほぼ横ばいの状態が続いている。

生徒数(平成16年9月1日)

	1 年	2 年	3 年	合 計
男 子	79	94	86	259
女 子	91	59	63	213
計	170	153	149	472

② 学校の教育目標

……人権尊重の精神を基盤として……

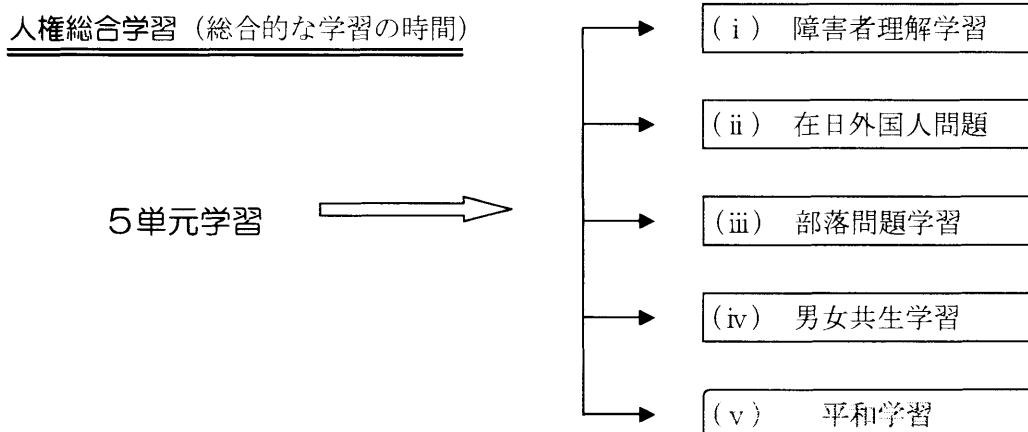
- I 正しく判断し、行動できる生徒
- II 自ら学び、自ら高める生徒
- III 心身を鍛え、ねばり強い生徒

学校運営の方針

- (i) 地域との連携を推進し、教育の活性化を図る。
- (ii) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成に努める。
- (iii) 道徳・特別活動を推進し、教員と生徒の心のふれあいを密にする。
- (iv) 専門職としての力量を深め、生徒の望ましい人格形成の向上に努める。

③ 総合的な学習の時間と人権総合学習

本校は、昭和55年前後の全国的に中学校がいわゆる「荒れ」た時期から、人権教育を軸に据えて「荒れ」を克服してきた経緯があり、今では「人権総合学習」として取り組んでいる。



④ 平和学習が、なぜ「沖縄」なのか？（本校の修学旅行の変遷）

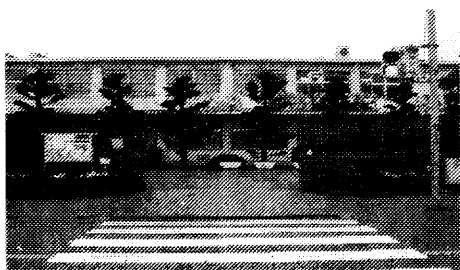
昭和56年、それまでの行き先は、いわゆる「名所・旧跡めぐり」のような状況で、列車もしくはバス等で移動する「旅」が通常であった。

この年、修学旅行を「スキー修学旅行」とし、2年生の3月実施に変更をした。十分に調査をし、検討を重ね、その上で学校長が英断をした。つまり昭和56年度は、2つの学年で修学旅行を実施したわけである。当時、高等学校の多くがスキー合宿を実施してはいたが、中学校では府下で数校であった。先進校を訪ね、指導いただく中で、教育委員会の理解・支援も得て踏み切ったわけである。その後12年間、3月の春スキーが続いた。

平成5年、スキーなら2年生でも行ける。3年生では、平和学習のまとめとして、「ヒロシマ」に連れて行きたい。感動させたい！そんな教員の思いから、行き先を変更し、3年生の5月に実施するように変わった。

平成12年度、テーマパークで体験もできるということから、行き先を「ナガサキ」に変更した経緯もあるが、往復路に時間がかかるという点が大きな課題であった。しかしながら平成14年、航空機の利用が認められ、行動半径が広がったことから、「清ら島」の自然と日本国内で唯一戦場となった戦跡を自分たちの目で体験させたいと考えた。

※ 校内に「宿泊を伴う教育旅行検討委員会」があり、行き先については、そこから原案が提出され、職員会議で決定される。



2. 平和学習の取り組み

最初に1年生の平和学習の流れを例として挙げる。

1年 平和学習指導計画

2002年6月～7月

指導目標...

- ・戦争の悲惨さを学び、平和の大切さを考え、平和を愛し、平和のために行動できる生徒を育成する。
- ・地域の方からの「聞き取り」を通して、戦争を実際に体験した人の思いを知り、戦争を少しでも身近なものとして考えさせる。
- ・3年生が学んできた平和学習の発表を受け、沖縄のこと、また、命の尊さを学ばせる。

指導計画(全8時間)

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1. 平和学習の導入・・・・・・・・・・(1時間) | 6/19(水) |
| 「平和」「戦争」に対するアンケート | |
| 地雷について考える | |
| 2. 平和集会・・・・・・・・・・(1時間) | 6/21(金) |

3年生の入り込みによる、沖縄戦の学習

- | | |
|--------------------------------|---------|
| 3. 大阪大空襲について学ぶ・・・・・・・・(1時間) | 6/26(水) |
| 私たちが住んでいる大阪にも、戦争(空襲)があったことを学ぶ | |
| 4. 戦争体験の聞き取り・まとめ・・・・・・・・(3時間) | 7/5(金) |
| 地域の高齢者の方から戦争・空襲・当時の生活のことについて聞く | |
| 聞き取り相手 → 男性4名 | |
| 5. ビデオ「東京大空襲」・・・・・・・・(1時間) | 7/10(水) |
| 6. 身近な人からの「聞き取り」のまとめ・・・・(1時間) | 7/16(火) |



次に2年生の平和学習の取り組みの例である。

2年 平和学習指導計画

指導目標...

- ・修学旅行の行き先になっている「沖縄」で、実際に行われた戦争について学習することによって、戦争の悲惨さや平和の大切さを感じとらせる。
- ・沖縄の問題だけでなく、現在、世界各地で起こっている戦争や紛争で、一番の犠牲になっているのが子どもであることを学ばせ、反戦の気持ちを育てる。

指導計画(全7時間)

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1. 平和学習の導入・・・・・・・・・・(1時間) | 6/10(火) |
| イラク戦争の犠牲になっている子どもたちについて学ぶ。 | |
| 2. 戦時中の日本の子どもたち・・・・・・・・(2時間) | 6/12(木) |
| ビデオ「対馬丸—さよなら沖縄—」75分 | |
| 感想をまとめる。 | |
| 3. 「対馬丸」の感想と沖縄戦について①・・・・(1時間) | 6/13(金) |
| ビデオ「対馬丸」を振り返る。 | |
| 4. 「対馬丸」の感想と沖縄戦について②・・・・(1時間) | 6/18(水) |
| ビデオ「対馬丸」の感想文の読み合わせ。 | |
| 沖縄戦の概要 | |
| 5. 平和集会・・・・・・・・・・(1時間) | 6/20(金) |

3年生の入り込みによる、沖縄戦の学習

- | | |
|-----------------------|---------|
| 6. まとめ・・・・・・・・・・(1時間) | 6/24(金) |
| 平和集会を振り返って。 | |
| 「さとうきび畑の唄」について | |

3. 「沖縄」修学旅行の取り組み

3年間の平和学習の積み重ねとしての集大成が修学旅行だと考えている。1年次でも2年次でも、毎年度、修学旅行が終われば、3年生の「まとめ」として、「報告集会」を実施することから、上級生の「報告」を聞いて学習する中で、「ヨーシ、私たちも『沖縄』へ行ったら・・・！」というモチベーションを高めていっていると考えている。

3年生になると、1学期が始まり、やがて5月の連休がやってくる。何かと追われているうちに、月日が経ってしまう。そういう意味あいから取り組みの主体はどうしても2年生の3学期になる。

3 学期の取り組みの詳細について下記のように計画した。

2年3学期 平和学習指導計画

指導目標...

- ・観光地「沖縄」と反戦・平和「沖縄」の2つの側面をもっている沖縄について学ぶ。
- ・修学旅行をより楽しく自分のものにするため、沖縄での体験(マリンスポーツ etc.)や平和学習(聞き取り etc.)を深める。
- ・自分で調べて、自分でまとめる力を着ける。

指導計画

1. 沖縄修学旅行に向けて〈導入〉・・・・・・(1時間) 1/28(火)
沖縄の学習に向けて、生徒たちのこれまでの知識を再確認する。
これから沖縄のことを学習していく意欲を高める。
2. 観光地「沖縄」と反戦・平和「沖縄」・・・・(1時間) 2/10(火)
ビデオ「清ら島 沖縄(チュラマ ウチナー)」30分
調べ学習に向けて、班でテーマを決める。
3. 班別調べ学習・・・・・・・・・・・・(4時間) 2/13(金)～2/26(木)
4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・(1時間) 3/5(金)
調べたものを、クラスの冊子にして読み合わせする。

調べ学習に向けて

各クラスの6班を下記のテーマ別に分ける。さらに各テーマの中で、個人で調べる項目を決めて調べ学習を行う。

- ① 沖縄と琉球(歴史など)
- ② 沖縄の人々の営み(文化など)
- ③ 沖縄の人々のこころ(太平洋戦争に関して)
- ④ 沖縄のふるさと(マリンスポーツなど)
- ⑤ 沖縄と世界のつながり(イラク戦争など)
- ⑥ 沖縄の未来へ(現在の沖縄など)

- ・ひとり一人が、自分の決めた項目の中で新聞1枚分(B4の大きさ)作る。
- ・クラス単位でまとめ、1冊にする。
- ・報告会・読み合わせ会を行う。

※ 調べ学習の資料は

- ・図書館等で書籍を活用
- ・沖縄のパンフレット、雑誌などを活用
- ・インターネットの活用

以上のように、各クラス・生活班での取り組みを続けながら、修学旅行への意識づけを繰り返した。

もちろん、生徒指導上も「修学旅行に備えて生活態度を整えよう！」と、目標をもたせ、多面的に学校生活の見直しをさせた。「そんなんで、修学旅行に行けるんか？」と叱咤激励をしながら、自主的な動きを期待し、生徒もそれに応えてくれ、少しは成果も出てきた。

やがて4月に入り、新しい学級・生活班が組織される。当然、修学旅行を前提とした集団づくりであり、2年生の調べ学習をもとに、生徒手づくりの「しおり」制作にとりかかる。

生徒たちに以下の要項が示される。

修学旅行実施要項

1. 目的

- ① 3年間の平和学習のまとめとして、日本で唯一地上戦が行なわれた沖縄を訪れ、沖縄の人々の思いに触れ、反戦・平和への気持ちを高める。
- ② きれいな海に囲まれた自然豊かな沖縄で、マリン体験や特産品づくりの体験を通して、沖縄の自然に触れる。
- ③ 中学校生活最大の行事を心に残るものにするため、集団で行動する中で社会のルールや公共のルールを学ぶ。

2. 日時

2004年6月24日（木）～26日（土） 2泊3日

3. 宿泊場所

「全日空 沖縄ロイヤルビューホテル」

沖縄県国頭郡本部町字石川938

Tel 0980-48-3631

4. 行程

6/24（木）

学校 → 伊丹空港 → 那覇空港 → ひめゆりの塔 →
6:20 7:40 9:05 11:00 11:40 12:30 13:00

平和資料館 → ガマ体験 → 平和セレモニー → ホテル
13:15 14:15 14:30 15:30 16:30 16:45 19:00

6/25（金）

ホテル → 本部港 → 伊江島（マリン体験・物産づくり体験） → ホテル
8:00 9:00 9:30 16:00 17:10

6/26（土）

ホテル → 首里城公園 → 国際通り → 那覇空港 →
8:00 10:30 11:30 11:20 12:50 13:10 14:40

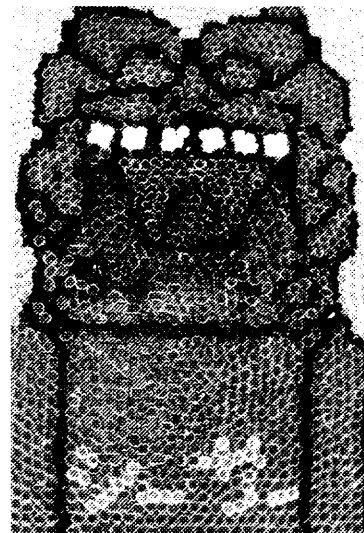
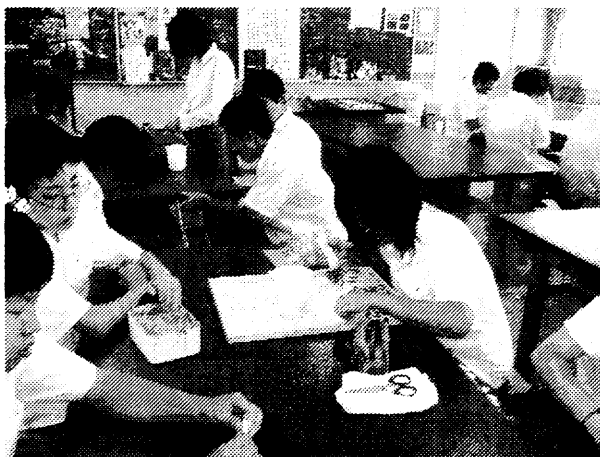
伊丹空港 → 学校
16:35 17:15 18:30

前述の要項をもとに、4月に再度組織改編された生徒の実行委員会を中心に学習計画を立てた。

2004年度 平和学習計画

1 限目 (5/6)	先輩の修学旅行から学ぼう 沖縄の修学旅行に向けて	資料 前年度の3年生が作ったもの ワークシート記入
2 限目 (5/7)	本土と異なる南島の歴史 「亜熱帯の風土と暮らし」	資料 「第2次大戦と沖縄」 ビデオ鑑賞「美ら島 沖縄」
3 限目 (5/17)	基地の町 沖縄	ワークシート
4 限目 (6/4)	映画鑑賞「さとうきび畑の唄」	
5 限目 (6/8)	沖縄戦の復習	資料 旅行社作成パンフレット
6 限目 (6/15)	「伊江島」を学ぶ 島の1/3が米軍基地	資料 1943年 飛行場建設 1953年 米軍の接收
7 限目 (6/17)	「聞き取り学習」について	資料 長田 勝男氏のプロフィール
8 限目 (6/21)	ガマについて	資料 糸数壕 (アブラガマ) ほが

平行して、調べ学習から壁新聞を作成する班・筒絵を作る班・千羽鶴を準備する班など作業を進める。



4. 取り組みの経過

前年度の卒業生が報告集会で「まとめ」てくれたものが、次年度役に立つ。3年の平和学習の導入で活用することが多い。

1 限目で使うワークシートは1・2年で学んだことを思い出させるために教員が作成したものを使用する。2 限目には、美しい風景を讀えた「美ら島 沖縄 (チュウマ ウチナー)」のビデオを観ながら、やがて訪れる日をワクワクして待つことだろう。しかし3 限目以降は、「日本で唯一、戦場となった沖縄」・「戦後、基地の町」として戦争と切り離せなかった沖縄を学んでいくことになる。

4 限目の映画は、昨年テレビで放映されたこともあって、一部の生徒たちは、一度は観ていたようであるが、町の施設である 250 名ばかり収容できる真新しいホールを活用した。

始まって少しの間、彼らが持っている「明石家さんま」のイメージから、あちこちで私語も出てざわついていたのだが取えて注意もしなかった。やがてシーンとなり、物音ひとつしなくなり、真剣になってきた。最期には、目を拭う生徒もいて感動的であった。そういった取り組みの中でまた違った見方をできたことが、感想文より感じられる。



生徒の感想文より

観て最初に思ったのが、「何で何にもして
いない人が、戦争に行つて死ななあかんね
やろ。」でした。自分の国とはいえ命まで捧
て戦争せなあかんというのも理解できなかつ
た。映画を観ながら「絶対、生きて！」って
心の中で叫んでた。何でって聞かれても……

この映画を観て、改めて戦争の恐ろし
さを感じました。戦争で物事が解決する
ことはないと思う。自分は、幸せな
時代に生まれ、ご飯もお腹いっぱい食べ
お金だって、さほど不自由しない。こん
な幸せだから、戦争のことも、命の大切
さも考えられるのだろうか。

映画が進んで、幸せだった日々が変わっていく様子を見てみると、悲しくて、かわいそ
うで涙が止まらなかった。「国のためなら死ねる」という考え方がアホらしくさえ思えた。
それでも、「命を大切にしろ！」という考えの人もいて、少し安心した。最後に家族がガマ
から出てきて投降し、米軍兵士に「私を殺すの？」と聞いたとき、ああこんな小さな子も
巻き込む戦争は絶対してはならないと強く感じた。

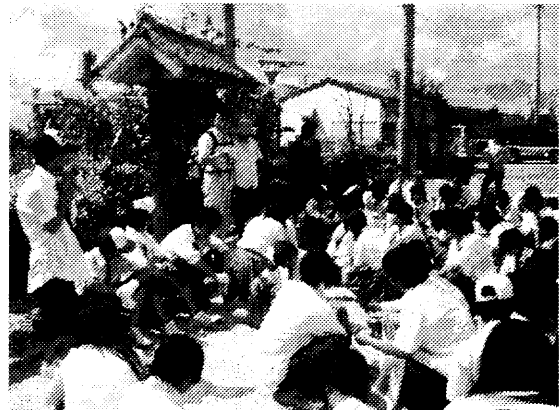
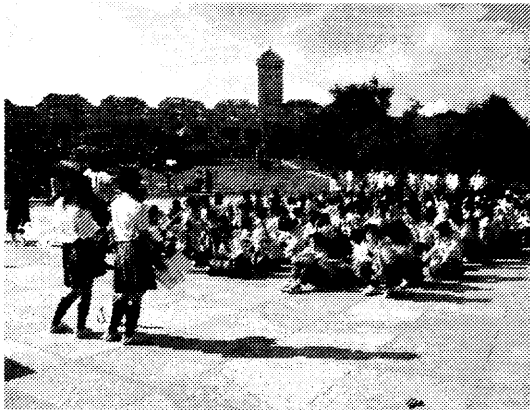
ただ涙が溢れて止まらなかった。どうしてこんなに涙が出るのか。かわいそうだからじゃ
ない。そんなんじゃない。かわいそうでは片づけられない。あの頃の人たち（軍人さん）と
かを見て思った。人間なのか？人の命を簡単に扱っている。そして簡単に奪った。小さな幸
せな家庭が戦争で壊されてゆく。戦争が終わったら映画に行こう。家族といっしょにいたい。
笑っていたい。そんな小さな願いがかなわなかった。戦争ってやっぱり人をおかしくしてし
まう。それなのに今も戦争をしようとしている……



5. 実施後の取り組み

教員側の心配もよそに、無事に予定通り実施でき、生徒にも成就感がもてたようであった。

平和資料館で行った「聞き取り学習」も講師の方の紹介や、質疑の司会や、お礼の言葉などすべて生徒たちが進めたが、静かに聴けるだろうかと心配した、いわゆる「やんちゃな子」も話に引き込まれ、一生懸命聞き入っていて、教員も胸をなで下ろした。



聞き取りの感想

私は戦争というものの残酷さをあまり知りませんでした。修学旅行の前に「さとうきび畑の唄」という映画を観ました。さんまさんが主演の沖縄戦を舞台とした映画です。その映画の中でも長田さんがおっしゃってたようなたくさんの死体、戦場に出る少年兵などのシーンがありました。とても生々しくて悲しかったです。長田さんのお話の中で友達の最期を見届けたというのが一番辛かったです。まわりにいる私の友だちがそんな風になったら、耐えられないと思いました。今、イラクで戦争が起こっています。たくさんの人々が亡くなって、傷ついて……

戦争は、なくすだけで何も生まないと思います。1秒でも早く戦争のない世界がきて欲しいと思います。貴重な体験を教えてくださいありがとうございました。

実施後は、平和学習会へ向けて取り組ませる。自分たちの成果を後輩に引き継ぐための取り組みである。

①7月9日（金）6限

テーマ毎に分かれて報告の準備をする。

②7月11日（月）4限

クラス毎に報告のリハーサル

1・2年生9クラスを巡回して、3年生24班が10分ずつ各クラス3テーマで報告した。

10分の報告のあと、下級生から質問が出て、しどろもどろで答える場面もあったが、3年生はそれなりに満足感を得たようである。

その後、1・2年生は、学習後の感想をまとめる。その中からいくつかを紹介する。

1年生の感想より

太平洋戦争では、たくさんの人が亡くなっているのは知っていたけど、こんなにもたくさんの人が亡くなっているなんて知らなかったです。日本軍やアメリカ軍だけでなく、沖縄県の住民も日本軍と同じぐらいの数の人が亡くなり、とても残念に思いました。自決をした人は、本当は長生きできたかもしれないのに……

沖縄が日本で一番戦争がひどかったんですね。洞窟（ガマ）には今もまだ戦争の時の血のシミとかいろいろ残っていると、その洞窟に入るのが怖いです。3年生の話を聞いて思ったんですが、この戦争で一番犠牲者が多いのが、日本人なんですね。どうして、ここまで戦わなければならなかったのか、集団自決とか今では考えられないけど……

これから、いろいろ勉強していこうと思います。

3年の人たちが、とっても分かりやすく教えてくれて、とても聞いていて楽しかった。でも内容が戦争だから、楽しかったけど戦争の恐ろしさがビンビン伝わってきた。私が3年になって、沖縄に行った時も優しく下級生に教えたい。ありがとう3年生の人たち。

2年生の感想より

3年生の発表を聞いて、戦争は怖いなど改めて感じました。犠牲者がこんなにいることを知って、すごくびっくりしました。ガマには住民が隠れていたことや、傷ついた兵士のための病院になっていたことも教えてもらいました。ガマの中は、真っ暗なのに戦争中、ひめゆり学徒隊とかが、どうやって治療したんだろうか……

平和学習会で、3年生の発表を聞いて、たくさんのことを学びました。日本全土にあるアメリカ軍施設の75%も……、沖縄戦で沖縄の住民が122,228人も……私は、沖縄のことについて結構知っているつもりだったけれど、3年生も発表は、すごく分かりやすかったです。来年、私たち2年生が沖縄に行くとき、先輩たちに教えてもらったことなどを生かしたいと思います。ありがとうございました。

6. 今後の課題

「ナガサキ」から「オキナワ」に変更して3年、ちょうど一巡した。例年、校内の宿泊学習等検討委員会で検討するわけだが、いくつかの課題もクリアーしながら、もう少し継続するという事になった。つまり、現在の1年生（平成18年度実施）までは、沖縄を予定している。

取り組む課題を箇条書きしてみると

1. 希望する航空便がなかなかとれない。（日時・時間）
2. 総費用が安くない。（平成16年度 68,000円）
3. 沖縄はこの時期、台風のシーズンである。
4. 突発的な事項への対応 等々

1. については、2年前から入札のような形式で、本校のプランをもとに3社以上の旅行社に、見積もらせ、諸条件を加味し決定するので、ある程度クリアーできる。
2. については、従前、本校では、1年生で宿泊学習、2年生でスキー合宿、3年生で修学旅行と実施していたが、保護者の金銭的な負担も考慮して、平成16年度より1年でスキー、2年なし、3年修学旅行と改め、保護者の了解も得ている。
3. 台風銀座と称される沖縄県、本年もいくつかの台風が通過した。過去3回は航空便に影響が出るようなことはなかったが、マリン体験を中止せざるを得なかったのが、平成15年度であった。幸い、替わりの行程が準備しており、混乱もなかったが、せっかくの青い海に入れなかったのも心残りであったようだ。直前に航空機が欠航した時のためには、旅行社とあらかじめ協議しておくことで、対応できると考えている。
4. 突発的なことは、何が起こるか予測がつかない場合が多い。いわゆる危機管理能力の間われる時であろう。平成15年度は、イラク戦争で、アメリカ軍が猛烈な物量攻撃を始めたとき、国連に参加している日本にもテロの驚異が起り、航空機テロが予想された時期があった。

保護者にとっては、とても不安であろうかと、臨時の保護者集会を招集して、諮った。

真剣に本音で協議していく中で、保護者は、「最終的に学校は、どう考えてるねん？」ということになった。学校は、「こういったこと（テロ・戦争）が起り、緊張感の高まる沖縄だからこそ、現実の沖縄を見せてやりたい。ただし、保護者の中に少しでも反対があれば、沖縄行きは中止する。」旨、伝えた。その後、2日間の猶予をもって、異議を待ったが、保護者は、誰一人反対をしなかった。

関西での沖縄修学旅行の実施希望校が増えていると聞くが、その時点で、不都合が生じてきたり、他の地域でふさわしい効果的な地域が出てくれば、また再検討すればいいと考える。

昭和52年からスキー修学旅行に取り組んできた中学校は少ない。当時は先進的な取り組みであった。しかし、人権学習・平和学習や体験学習が修学旅行の主流となってきたとき、また変更をするのにやぶさかではないと考える。

「不易と流行」、これは最大の教育旅行である修学旅行に課せられた命題であろう。取り組みの主眼は少しも変わらないが、内容は、時代とともに変遷していくものとする。

003, 4, 14

美原中学校

3 年 学 年 通 信

保護者会を終えて

4月11日夜7時からの保護者会に参加された皆さま、ご苦労さまでした。60人余りの参加をいただき誠にありがとうございました。

学年では、イラク戦争の影響で、沖縄修学旅行を考え直さなければならないのではないかと、もし目的地を変えるならば、今までの生徒達の取り組みを無駄にしないようにするためにもどこを候補地にしたらよいのか。長崎なら、平和学習の取り組みを無駄にすることもなく、また、思いで作りのできる場所も多くある等、何度も会議をする度に不安を感じながら、やはり「保護者の方の考えも参考にさせてもらおう」と言うことで今回の保護者会を設けさせていただきました。

おかげさまで、いろいろな保護者の立場からの思いや心配をお聞かせいただけて感謝しております。（右ページに保護者会での内容を載せています）

会終了後に担任や学年教員が保護者の方から個々にお話を伺った結果、「心配が無いわけではないが、戦場となった沖縄での平和学習は値打ちがあると思うし、沖縄の海と空を体感することで思い出多い修学旅行になると思う」と、多数の方から「沖縄に行かせてやりたいのでお願いしたい。」という言葉いただきました。ありがとうございました。

沖縄にするのか長崎になるのか、明日4月15日（火）に決定することになっていますので、今日の夜にでも子供さんを交えてお話しいただき、思いやお考えがありましたら明日中に担任まで連絡をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



保護者会 (2003, 4, 11 7:00pm~)

【学校側から】

- ・ 学校での現在の取り組み、準備の進み具合の説明
- ・ 生徒の実行委員会の活動状況を説明
- ・ 沖縄を企画している学校の4割は実施を見合わせている
- ・ 現時点で10%のキャンセル料がかかる(約7,000円)
- ・ 長崎へ変更した場合、キャンセル料込みでほぼ同額の費用となる

【保護者から】

- ・ 昨年度の沖縄での平和学習の取り組み内容や様子について
※ガマの見学や現地での聞き取りなど大きな成果があった
- ・ 沖縄への修学旅行が中止となった場合、平和を目的とした旅行で長崎以外で実施できる候補地はあるのか。また、平和学習の目的をはずして、行き先を変更できないのか
- ・ 沖縄への旅行を決めるときに、飛行機利用の危険性を考えれば、決断する学校側の不安はなかったのか。決定に踏み切った学校は勇気があった
※昨年度より府が飛行機を認め、本校では2年前より利用している
※時間が有効に使え、飛行機の安全性も高い
- ・ 危険という意味ではどこへ行っても同じではないか。沖縄が特別とは思わない
- ・ 全保護者にアンケートを実施しないのか
※アンケートは一方通行に陥りやすいので、話し合いを重視してお集まり頂いた。
- ・ 子ども達自身は、どう思っているのか
※ほとんどの生徒は沖縄だと思っているようだ
- ・ 平和学習がテーマなら、今がむしろ良い時期とも考えられる
- ・ このような時期だからこそ、見せてやりたい実体験の学習ができるのではないか
- ・ 状況も変わってきており、7,000円ものキャンセル料を払ってまで、行き先を変更する必要性を感じない
- ・ 沖縄自体はこの事態で特別な警備や対応がなされているのか情報があれば安心できる
※特別な警備体制が組まれている。市内は当然平穏で、沖縄県としては招致をしている

1. 戦争当時どこに住んでおられましたか？

大阪以外では

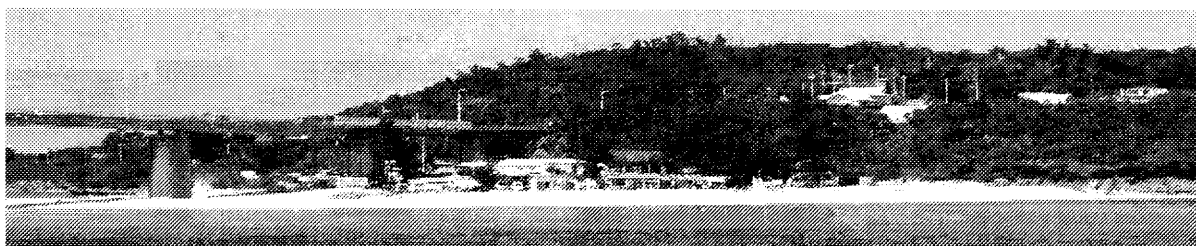
- ・九州の天草に
- ・島根県壱岐郡海士町
- ・上海
- ・宮崎県
- ・鹿児島県
- ・福岡県久留米市
- ・神戸市兵庫区

美原町近隣では

- ・堺市福田
- ・大阪市阿倍野区阪南町
- ・大阪の難波
- ・羽曳野市
- ・美原町黒山
- ・大阪市玉造

2. 戦争の体験や、戦争当時のことを教えてください。

- ① おばあちゃんの兄がシベリアに5年捕虜として捕らわれていた。女は18歳、男は、21歳で勤労奉仕をさせられた。予備隊として男も飛行機に乗る練習をさせられた。鉄砲の弾を運ばされたり、竹やりでアメリカ兵を殺す練習をさせられた……。 (祖母)
- ② 防空壕に入って、身を潜めていた……。 (祖母)
- ③ 赤紙というものがきたら戦争に行かなければならなかった。母方の祖父は、体が弱くて行かなくてもよかったが、父方の祖父は戦争に行って中国で捕虜になり、何年かして戻ってきた……。 (祖父)
- ④ おばあちゃんの姉の近くに焼夷弾が落ちたけど、姉は無事だった……。 (祖母)
- ④ 広島に原爆が落ちたとき、おじいちゃんは広島に居て、その時の傷跡が今でも背中に残っている……。 (祖父)
- ⑥ 小学校1年生のとき、「空襲警報発令！」とサイレンが鳴って「避難！」と言われると、防空頭巾を被って防空壕へ逃げ込む。空にはB29が飛んでいた。空は真っ赤で大勢の人たちに混ざって火の粉が降り注ぐ中を小学校まで逃げた……。 (祖母)
- ⑦ 19の時、和歌山で入隊し、門司へ行き、船で上海へ行き、半年ほどして朝鮮へ行き、日本に帰る途中で船が沈められて広島へ行き、8月1日に福島へ軍が移動したので原爆にあうことがなかった。そこで終戦になった……。 (祖父)
- ⑧ 昭和19年1月に軍隊に入ると中支へ。南京・漢口・長沙と移動する。それから終戦は南京で迎えた。昭和21年4月舞鶴へ引き上げ、その間飲まず食わずで弾の下をくぐり、飛行機からの銃撃を受けながら、九死に一生。現在に至る……。 (祖父)



3. 戦争当時の生活の様子について教えてください。

- ① 戦争当時は食べる物が少なく、干し芋（芋を茹でて干したもの）を食べていた。
兄弟が多くて少ない食べ物を奪い合ったりした……。 (祖母)
- ② 大阪市に住んでいたとき、夜は電気を消して部屋は真っ暗だった。福井へ変わったときは、大阪のようなことはなかったけど、食料の少なさは、全然変わらなかった。
身の周りの鉄などは国に収められて、おかげで祖母の2階のベランダの手すりなども鉄から木に変わった……。 (祖母)
- ③ 小学生でしたが、学童疎開で空襲を避けて安全なところに移りました。疎開先での食事は、戦争で日本中の食糧が不足していたので、おかずに肉類などは殆どなくて、芋や野菜が中心でした……。 (祖母)
- ④ 夜寝る時も服を着て、食物や衣類はカバンの中に入れて、すぐに家から飛び出せるようにして居ました……。 (祖父)

4. 平和学習で子どもたちに考えて欲しいことを聞かせてください。

- ① 戦争は何故起きるか？起こらないようにするにはどうしたらよいか？食べ物大切さや命の大切さを教えてやってほしい……。 (祖母)
- ② 戦争ほど残酷なものはない。どんな時も人の痛みをわかったり、相手の気持ちを思う気持ちの大切さをまず身近な自分の周りから考えられるようになってもらいたいと思います……。 (祖父)
- ③ 実際に敵と戦ってきて無事生還してきた者にとって、戦争なんて2度とごめんだと誰もが感じていると思います。平和がどんなに大切か分かっている一部者には、欲望とか闘争心、群衆心理、その他諸々の利害関係が相まって国民を不幸にしてしまうものです。今の平和な日本を子どもたちが守ってほしいと思います……。 (祖父)



研 究 発 表 ②

「北海道への修学旅行」

～ 総合的な学習（福祉）を深める ～

兵庫県安富町立安富中学校

志水 和司教諭

1	はじめに	-----	1 9
2	これまでの修学旅行	-----	2 1
3	2 0 0 4 年度 修学旅行について	-----	2 1
4	具体的な計画	-----	2 4
5	『総合的な学習』のあゆみとその関連	-----	2 6
6	2 0 0 4 年度 修学旅行の実施	-----	3 0
7	修学旅行報告会	-----	3 4
8	成果と課題	-----	4 0

北海道への修学旅行

～総合的な学習（福祉）を深める～

1 はじめに

学校および地域の概要

本町は兵庫県西部の山間部に位置し、南に林田町・龍野市、東に福崎町、峠を隔てて山崎町と交通の要所をしめ、2004年7月現在、世帯数1912戸、人口5983名の小さな町である。

本校は、この安富町において1町1校の中学校で、生徒数は1年生71名、2年生71名、3年生66名の合計208名で、少子化に伴い小規模化してきている。4年前の生徒数256名からみて、2割ちかくの減員となっている。

地域の人々の人情は厚く、また、学校教育に対する期待も大きく、協力的である。共稼ぎの増加や都市化により、生徒の帰宅時に大人がいない家庭や朝食時一人で食事をする生徒が増加しており、以前の田舎の学校という状況に変化がみられるようになってきた。

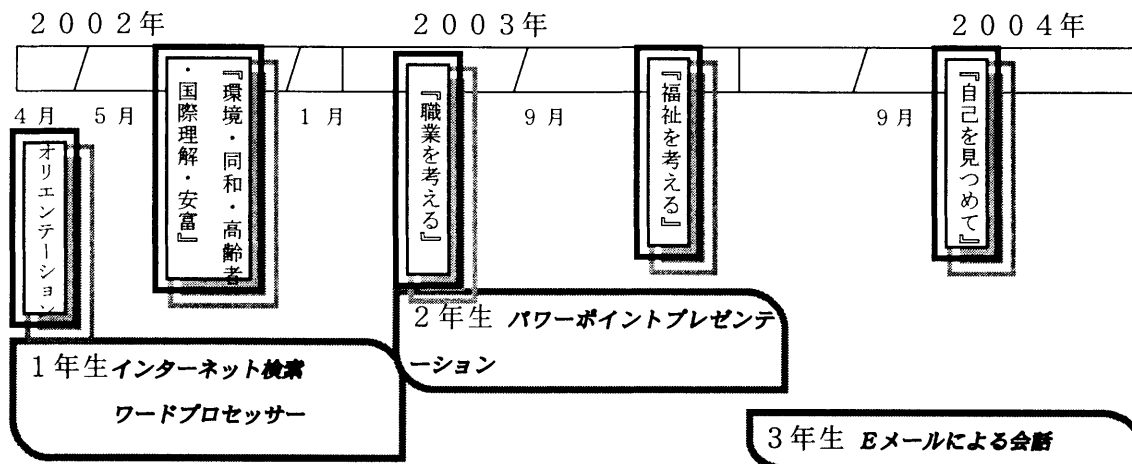
生徒は概して素直で温厚であり、学習や生活態度もまじめで、落ち着いた学校生活を送っている。清掃や部活動にも熱心に取り組んでいる。

悪質ないじめ問題もなく、不登校の生徒も本年度はいない。また問題行動も少ない。が、全般的には、課題を発見したり、解決する力に欠ける生徒が増えているように思える。依頼心が強く指示待ち傾向があり、主体的に自分を律したり、自分を高めようとする姿勢や意欲が望まれる。

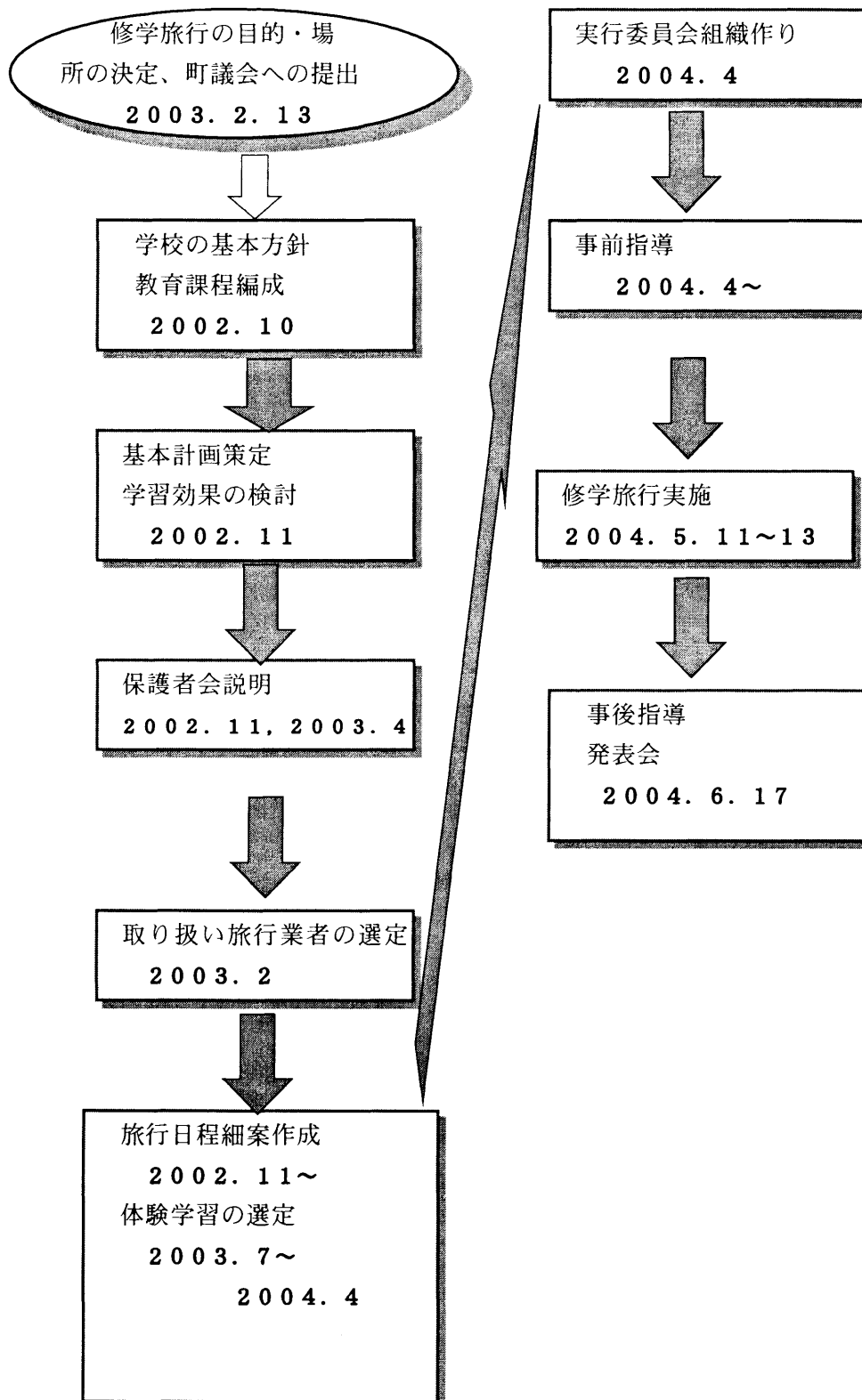
（16年度学年別生徒数）

	1年生	2年生	3年生	合 計
男 子	38	35	35	108
女 子	33	36	31	100
合 計	71	71	66	208

（16年度3年生の「総合的な学習」の経緯）



修学旅行実施までの流れ



2 これまでの修学旅行

○本年度までの修学旅行

1999年以前	東京方面
2000年度	沖縄方面
2001年度	沖縄方面
2002年度	北海道方面（9.11の関連）
2003年度	沖縄方面
2004年度（本年度）	北海道方面

3 2004年度 修学旅行について

○目 標

人権教育目標：

人権尊重の精神を培うとともに自己の問題として認識できる生徒の育成

修学旅行テーマ：

共生社会に生きる人として、どのように社会に生き、貢献できるか。

○安富中学校修学旅行5つのコンセプト

NO. 1 自然体験活動（大切に作る心、感動の心）

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉がありますが、子供たちにしろ、私たち大人にしろ、私たちが経験した少ない経験の中からしか、考えが至らないことが多い。

今後、グローバル化社会の中で生きていく子供たちにとって、自分たちのこれまでの少ない経験を根底から、見直させるような自然体験をし、パラダイムの変換をはかりたい。

また、この体験により、すべての事柄について、もう一度考え直す機会になったり、「綺麗や雄大さ」など人間が本来持つ素直な気持ちが、表現できたら後の生き方に大きなプラスになると考える。

<具体的案>

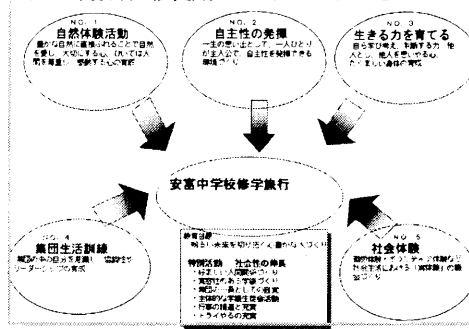
○ラフティング体験（大型ゴムボートによる雪とけ水の急流下りで、大規模な体験は、オーストラリアや北米大陸でしか体験できない。）

熱気球体験（熱気球にのって、大自然の上空から大地を見る）など

NO. 2 自主性の発揮（一人ひとりが主人公として）

「一人一役」で責任感と達成感を味わわせる。

平成16年度以降の修学旅行についての5つのコンセプト



事前研修で「一人一テーマ」で修学旅行の目的を持たせる。

北海道の施設訪問に地元兵庫県、安富町の紹介

NO. 3 生きる力を育てる（自ら考え・自ら解決、他人を思いやる）

班別研修のコースを考える中で、総合的な学習で学ぶ内容についてそれぞれがより深く理解したり、疑問に感じている事柄について解決する糸口になるような経験を積む。

また、公共交通機関の利用方法や北海道の名所、名物をインターネットで調べたり（社会・特活）、班員の意見を集約した最善のコースを選択することで協調性を養う。

地元の方々にインタビューすることで、交流を深め、また風土・習慣の違いなど発見させる（計画は国語）。

外国人へのインタビューも加える（英語）。

平成14年度の三年生総合「北海道の人権の歴史」を履修し、学習を深める。（道徳）

NO. 4 集団生活訓練（協調性・リーダーシップ）

個人の活動、班の活動、学年全体行動と3つの行動パターンを明確に使い分けること、また、それぞれの場面で一人一役を与えることで個人の役割の重要性と共に、全体の中の個人の立場・協調性の大切さやリーダーシップのはたす役割や重要性を学習させる。

活動班、研修班、実行委員会の設置（特活）

NO. 5 社会体験（勤労体験・ボランティア体験）

生徒たちは小学校・中学校の総合的な学習を通して、日本社会がかかえる今日的課題をいくらかずつ学習してきている。

例えば、人権の問題、環境の問題、高齢化の問題などであるが、その中の大きなテーマは「共生社会に生きる人として、どのように社会に生き、貢献していくか」である。

修学旅行をこの体験活動の良い機会と考え、勤労体験あるいはボランティア活動を計画していきたい。

施設訪問 兵庫をPR、土産づくり（美術等）。

○ コンセプトにあわせた場所選定について

近年、ともすれば「買い物ツアー」であるかのような修学旅行が増えつつあります。私たちは、この傾向から新教育課程にマッチした体験活動重視の修学旅行を実施するためにまず前ページで述べたコンセプトを設定し、これにあう場所として、以前の東京方面、平成12年より実施してきた沖縄方面、そして本年度、同時多発テロの余波で実施された北海道方面の3つにしばり、職員会議等を数回もち、検討を重ねてきました。今年度から実施された新教育課程の趣旨をもとにして、総合的な学習の見地から考えた場合、東京方面は、情報化社会や防災をテーマにした場合は向いている。沖縄方面は平和教育には向いている。が、私たちが来年度も引き続き実践しようとしている総合的な学習の「人権」では北海道方面のアイヌの人たちについての学習の方がより向いているように思えるし、本年度の3年生が、北海道で学習してきた内容・資料をより発展させることができること。また、大自然との関わり（体験活動）もより雄大なものが沢山あること。東京方面も学習の場として、良い点もあるが、将来、生徒たちが行く機会が予想されることや、安全の確保が危惧されることを考えると、新教育課程と修学旅行の本校のコンセプトにあわせた場所選定という点では、北海道方面の方がより向いているように考えました。

○保護者の意見

3学期当初、保護者の意見を参考にするため、アンケート調査を実施しました。結果は以下の通りです。

いい思い出づくりができ、また、これからの人生の中で何か得るものがあるような体験ができれば、……
と思います。大自然のある北海道、一度は行って、気持ちを大らかに、いっぱい自然とふれあえるようなものを望みます。

詳しい内容は分からないのですが……
最近では3万円だせば北海道へ行ける時代なので少し高いように思います。修学旅行は高くても仕方ないというイメージがあるようですが、そのこの処をもう少し考えてほしいと思います。

賛同します。先生方がいろんな方面から子供たちのために検討してくださりありがとうございます。総合学習やその他の準備の方、大変かと思いますが、よろしくお願い致します。
費用を少しでも安くなるよう考えていただいていることはありがたいです。

普段経験できないテーブルマナーも入れてもらいたいと思います。子供たちに無駄なく楽しいプランをお願いします。よろしくお願いします。

兄のとき、沖縄でしたが、観光の他にマリンスポーツもあり、また平和教育もあり大変有意義だったので、行き先が変わり残念です。

東京方面も首都ならではの高層ビル群、国会議事堂、ドーム他見所豊富で子供たちの興味をそそりそう捨てがたい。

中学校生活の中で重要度の高い修学旅行ですから思い出に残る旅行にしたいと思いますし、地域の文化や伝統にふれるのにも北海道はいいと思います。
子供も北海道が、いいと言っておりましてので北海道に賛同します。

2月13日現在 65名（全生徒数）中、
65名のアンケートが返ってきています。（回収率100%）

北海道方面 62名 沖縄方面 2名

東京方面 1名

意見として以下のようなものがありました。

<<賛同意見>>

平成10年頃をさかいに、各県の中学校修学旅行で飛行機による移動が認可され、平和教育に主眼をおいた沖縄への修学旅行が流行となり、高等学校の修学旅行に加え、中学校でも増えていることと、観光地が限られ「ひめゆりの塔」「平和記念館」「首里城」「国際通り」は、シーズンには、修学旅行生で混雑し、他校生と生活指導上のトラブルが心配されるのが現状です。

東京への修学旅行も依然として多く、日本の首都で国会議事堂や東京タワー、東京ドーム、ディズニーランドは、シーズンには、修学旅行生でごった返し、特にディズニーランドでは、土・日曜と重なると10万人の入場規制にかかったり、人気の乗り物は一時間の待ち時間に悩まされたりするのが現状で、都内の自由行動も心配が絶えません。また、子供に人気の原宿・竹下通りの自由行動ではトラブルも多いと聞きます。

それにひきかえ、北海道は、大自然を味わうには道東、雄大な雰囲気は道央、都会の雰囲気と自然あるいは開拓の歴史の勉強には道南、と目的に応じて幅広く対応でき、修学旅行生も一箇所に固まっていません。本年度実施された北海道方面の修学旅行でもゆったりして、他校生との生徒指導上のトラブルを心配するといったことは皆無であったと聞いています。

保護者の皆さんが、心配されるのが、内容と費用だろうと思います。

とくに今日の日本の経済状況から考え、子供たちには精一杯の思い出づくりをさせてやりたいと考えながらも費用の負担はかなり重荷になるだろうと思います。

一般的に東京方面で5万5千円～6万5千円、沖縄方面で6万5千円～7万5千円、北海道方面で7万円～ と考えられています。(ホテルや体験学習また北海道では、行く場所によって変わりますが)

本年度旅行業社5社に見積もりを出させ、内容の検討やら、費用の節約を試みる中で以下の内容で北海道でも6万5千円までに押さえることができました。もし、この案で実施されとなると再検討の中、夜食分や体験学習の内容変更で2～3千円の増額が必要かもしれませんが、沖縄方面での修学旅行にかかる費用と変わらないか、もしくはそれ以下で実施することができそうに思います。

4 具体的な計画

○ コンセプトの具体化

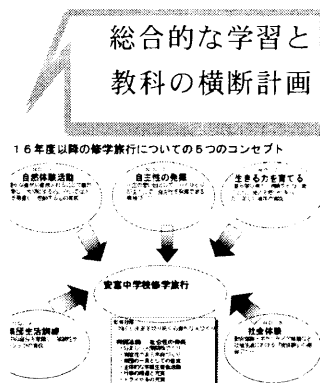
修学旅行指導計画

2009. 3. 4

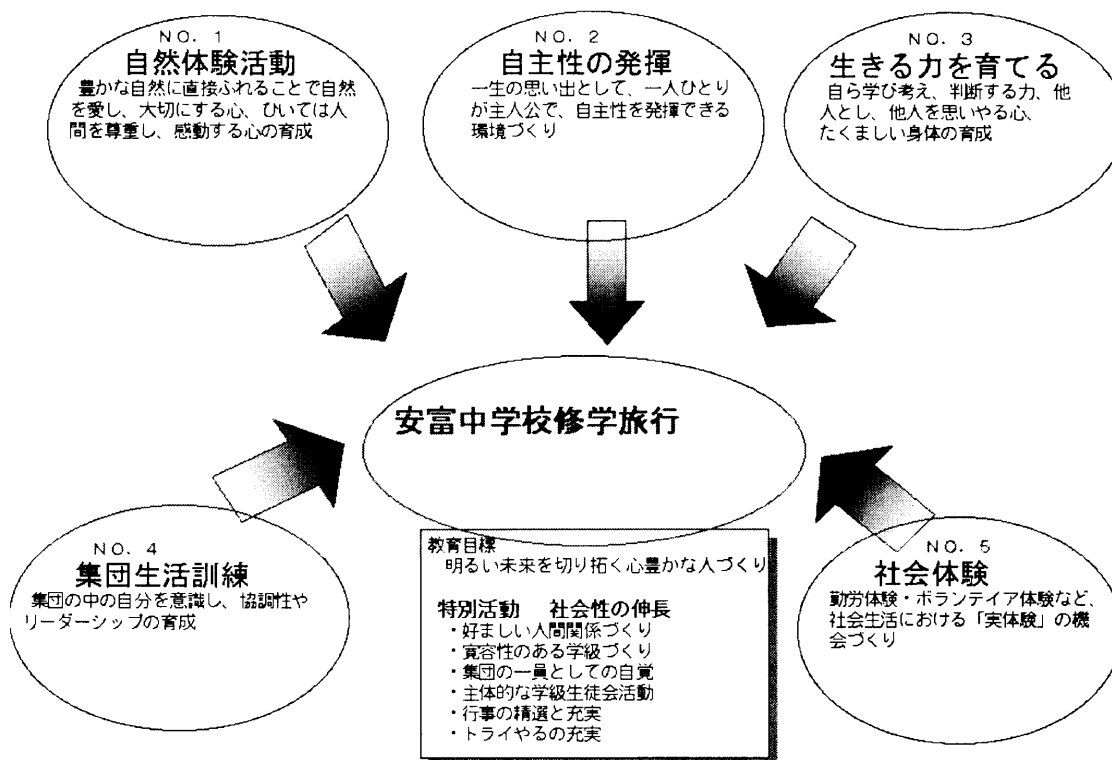
学年	自然体験活動	自主性の発揮	生きる力を育てる	環境生活体験	社会体験
1 年 生	○「北海道の魅力探し」(社会)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)
1 学 期	○「北海道の魅力探し」(社会)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)	○1年生の目標の決定 (1学期特活)
2 年 生	○自然体験活動の研究 (特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)
2 学 期	○自然体験活動の研究 (特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)	○2年生の目標の決定 (1学期特活)
3 年 生	○自然体験活動の研究 (特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)
3 学 期	○自然体験活動の研究 (特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)	○3年生の目標の決定 (1学期特活)

各教科・総合的な学習の横断的学習の計画

総合的な学習における意識付け



平成16年度以降の修学旅行についての5つのコンセプト



5. 「総合的な学習」の歩みとその関連

1年生内容 (2002年度)

4月：『総合的な学習』のオリエンテーション

6月：活動開始 リバティ大阪へ研修

テーマの設定

大テーマ（本校テーマ）：『人権』

中テーマ（学年テーマ）：『周りをよく見てみよう。』

小テーマ（グループテーマ）

：『環境を見る』

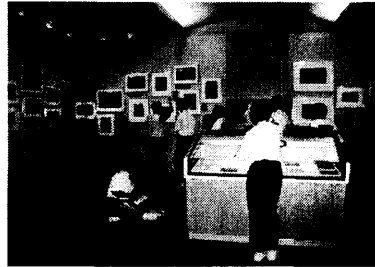
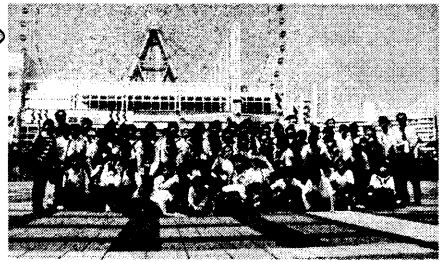
「差別問題を見る」

「高齢者問題を見る」

「安富町を見る」

調べ学習：インターネットで調べる

リバティ大阪での研修風景



11月 発表：掲示物による発表

パワーポイントによる発表



2年生内容 (2003年度)

1月：活動開始

テーマの設定

大テーマ（本校テーマ）：『人権』

中テーマ（学年テーマ）：『職業について調べてみよう。』

小テーマ（グループテーマ）：全体学習の為無し

調べ学習：インターネットで調べる

6月『トライやる・ウィーク』実施

7月 発表：パワーポイントによる発表

9月：活動開始

テーマの設定

大テーマ（本校テーマ）：『人権』

中テーマ（学年テーマ）：『福祉を考える。』

小テーマ（グループテーマ）

：『高齢者福祉を考える。』

『障害者福祉を考える。』

『公共団体の福利厚生を考える。』

10月《体験学習》

『田中さんを迎えて』

～盲導犬に親しもう～

10月《体験学習》

田中さん講演風景

『目が見えないって？足が動かないって？』

○体験を通して、近づいてみよう

《調べ学習》：インターネットで調べる。

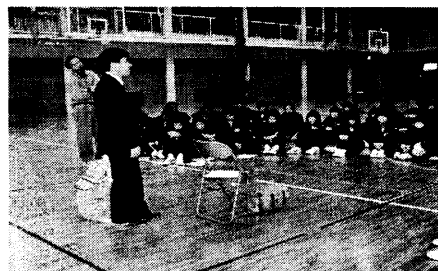
《インタビュー学習》

：様々な人へのインタビューをする。

《体験・観察学習》

施設や街にでて観察する。

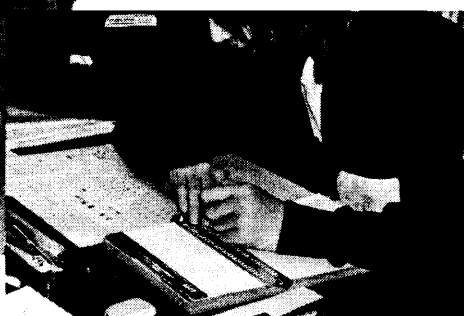
○グループ調べ活動



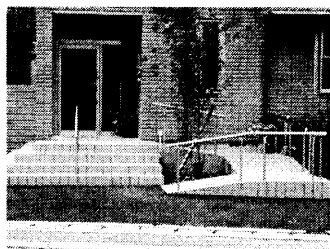
アイマスク体験



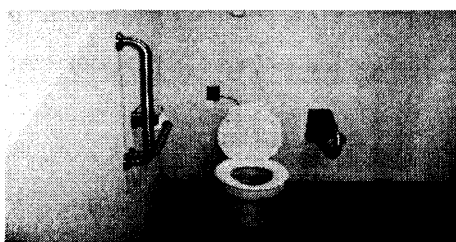
老人福祉施設アジサイホーム訪問風景



講師さんより点字を学習している風景



町内のバリアフリーを探しに



町内のバリアフリー住宅を訪ねて

修学旅行の実施 (別記)

7月 発表 : 参観日に パワーポイントによる発表会

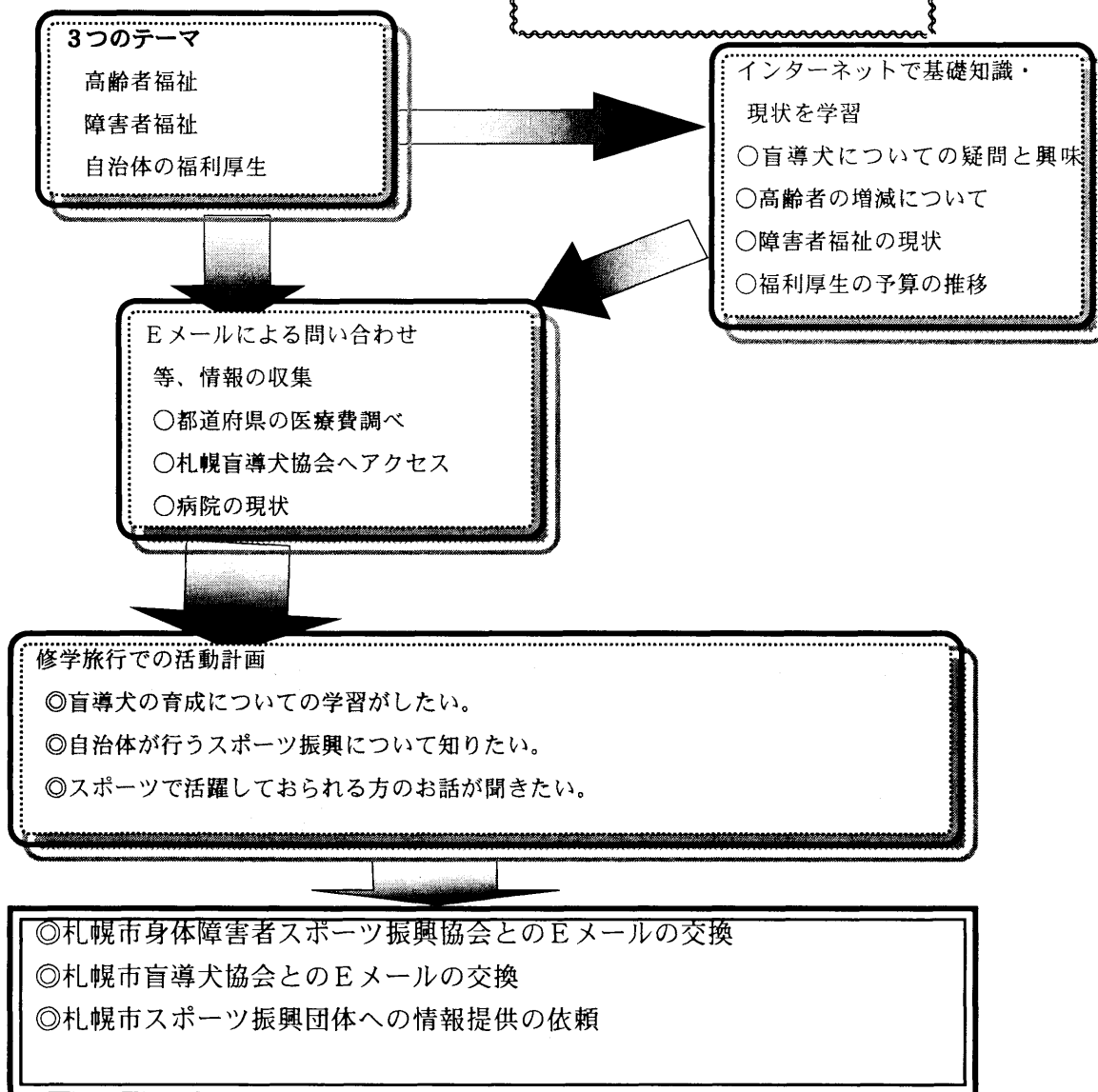
5つのコンセプトに合わせた事前活動

5つのコンセプト

- NO. 1 自然体験活動 (大切にする心、感動の心)
- NO. 2 自主性の発揮 (一人ひとりが主人公として)
- NO. 3 生きる力を育てる
(自ら考え・自ら解決、他人を思いやる)
- NO. 4 集団生活訓練 (協調性・リーダーシップ)
- NO. 5 社会体験 (勤労体験・ボランティア体験)

◎総合的な学習の中で

- NO. 2 自主性の発揮
- NO. 3 生きる力を育てる
- NO. 4 集団生活訓練



生徒会スローガンを考える

生徒会長 森上 真依

今年のスローガンは「育み、咲かそう！勇気の蕾」に決まりました。

このスローガンの意味ですが、みなさんは「勇気の蕾」とは何だと思いますか？1年生は知らないことですが、2・3年生は去年から「安富中に足りないもの」について話し合ってきました。「けじめ」「自主性」「責任感」「積極性」「判断力」などが足りないなど、様々な意見が出ました。

どんなことでも行動を起こすときにはちょっとした勇気が必要です。例えば、落ちているゴミを拾うのも勇気だし、授業中発表したり、時に友達にアカンことは「アカン！」ときっぱり言ったりするのには大変な勇気がいります。

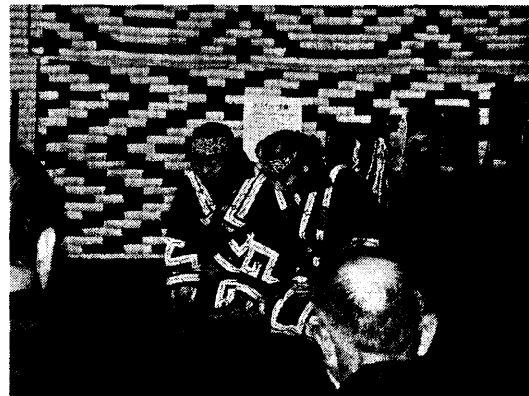
もう一度自分を見つめ直してください。アカンことをしている人、自分を見て見ぬふりしていませんか？3年生は最後の夏の大会に向けて全力で練習していますか？しんどいこと、弱い自分から逃げていませんか？「ありがとう」は言えても「ごめんなさい」が言えなかったり、テスト勉強でも、もうちょっとがんばれるのに、「面倒くさい」「もうええわ」とあきらめていませんか？

心の中では分かっているのに行動には移せない、その心の中で分かっているみんなの判断できる心、これが「勇気の蕾」です。「勇気の蕾」はここにいるみんなの中にあるのです。でも、それを引き出したり、発揮したりするパワーが安富中には足りないと思います。だから、その誰もが持っている「勇気の蕾」を蕾のままで終わらせたくない、花として咲かせたい。そんな思いがこのスローガンには込められています。一人ひとりが勇気を持ち、協力しあうことで、「勇気の花」を咲かせていきましょう。そして、今年1年このスローガンを心にとめて、ここにいる208人全員で、よりよい安富中を作っていくしましょう！

6. 2004年度 修学旅行の実施

日 程 (簡 単)	
5月11日	学校発 ~~~~~ 伊丹 ~~~~~ 千歳 ~~~~~ ~~~ ♪ トコタンアイヌ民族博物館<異文化学習> ~~~~~ 札幌身体障害者スポーツ振興協会<障害者スポーツの現状見学> ♪ 札幌盲導犬協会<盲導犬普及推進の現状を知る> ~~~ パラリンピック日本代表田中哲也さん講演
5月12日	北大見学 ~~~ 大倉山 ~~~ ニセコ東山 ~~~ ~~~~~ ラフティング体験 ~~~~~ テーブルマナー体験
5月13日	ニセコ東山 ~~~~~ 小樽自由行動 ~~~~~ 千歳 ~~~ 伊丹 ~~~~~ 学校

♪ トコタンアイヌ民族博物館<異文化学習>



アイヌ民族楽器の演奏風景



アイヌ民族舞踊風景

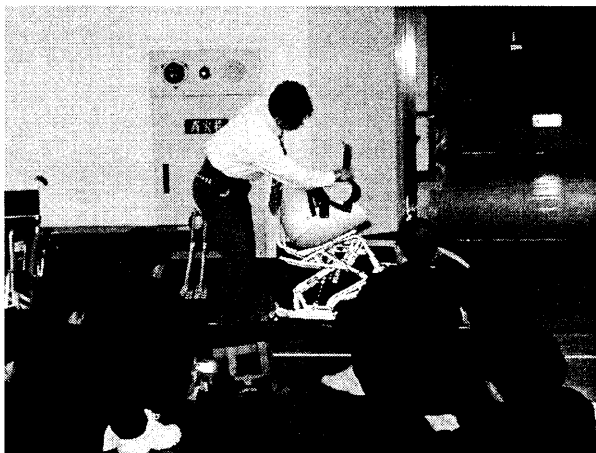
○アイヌの人たちのムックリの演奏や民族舞踊などを見せてもらったり、文化の説明を聞いたり、アイヌ語の解説をしてもらったりしました。事前学習で勉強していったのでよく分かりました。

—女子—

札幌身体障害者スポーツ振興協会＜障害者スポーツの現状見学＞

○車いすのスキーやら、手足の不自由な人たちでも出来るスポーツなどを教えてもらった。健康であるということをしみじみ考えるとともに、そうしている間にも続々来館される障害者の人たちが僕が考えていた以上に明るいのに驚いた。

—男子—



スキー道具の説明を聞く風景

札幌盲導犬協会＜盲導犬普及推進の現状を知る＞



○盲導犬の仕事の期間は12年間ほどだそうです。盲導犬が沢山いてとてもかわいかったです。仕事が終わった老犬たちは、パピーウォーカーに引き取られることもあるそうでした。本当は犬が嫌いなんだけど、少し犬に対する考えが変わりました。

—女子—

小樽自由行動

○小樽の自由行動では兵庫県内で見たことのないたくさんのものを見つけました。沢山のガラス製品だとか、沢山の海産物だったり・・・

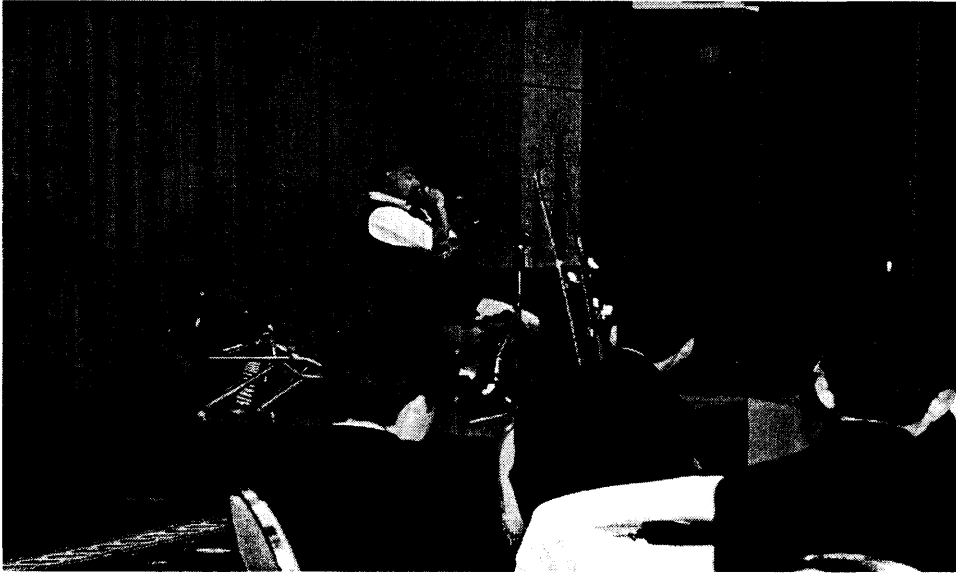
—男子—

○私の心に残ったことは、小樽自由行動でのオルゴール作りです。事前計画で計画していたことでしたが、いって始めたらやっぱりして良かったと思いました。今も、机の上に置いています。かわいくて良い思い出になりました。

—女子—

パラリンピック日本代表田中哲也さん講演

<障害者スポーツに取り組む人の生の声をもとめて>



○足を失った時のショックは大きかったと思いますが、障害があったとしても生きようとする前向きな姿勢が聞いている僕たちに伝わってきました。そして、精神的にも肉体的にも強いことが分かりました。生きる力をもらったように思います。これから勉強に部活動にいかしていきたいです。

—男子—

○田中さんの「自分の金メダルを取りなさい」の言葉に感動しました。

—女子—

ラフティング体験<自然体験>



○ラフティングを始める前まで不安で仕方なかったが、始まるとインストラクターのお兄さんが楽しく上手に先導してくださったのでとても感動しました。

—男子—

○私たちのインストラクターはネパールのケイジさんでした。ドライスーツは着づらくて苦労しました。ハドルを川に着けてみましたが、全然つきませんでした。一人

の子が、ボートを揺らして、川に落ちました。10m程流されてみんなで助け、今度はみんなで川に落ちてみました。とても楽しくてもう一度行きたいです。

—女子—

- ものすごくワクワクして流れはドンなんだろうとかオールをこぐのはしんどいのだろうかとか考えているうちに、担当のディンゴさんがおもしろく笑わせてくれて安心しました。ボートの上で急に歌を歌ったりしました。途中、流れが急になったりオールの漕ぐ息が合わないとかボートが回転したり楽しかった。羊蹄山もきれいだった。

—男子—

- 7～8kmあったそうで40分くらいかな。楽しかった。終わって気がついたら服がグショグショ。寒・・・別れる時インストラクターさんが最後のさいごまで手を振ってくれました。

—女子—

初めての飛行機体験

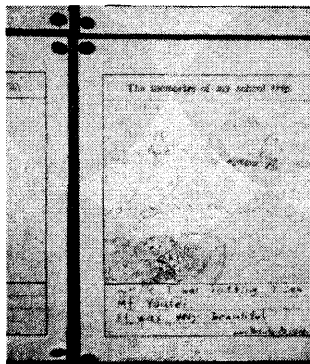


- 印象は、飛行機のもものがすごく強いです。初めてだったのですごく緊張しました。離陸した時耳が痛くなってびっくりしました。空から陸を見たら雲の下に町が見えて感動しました。—女子—

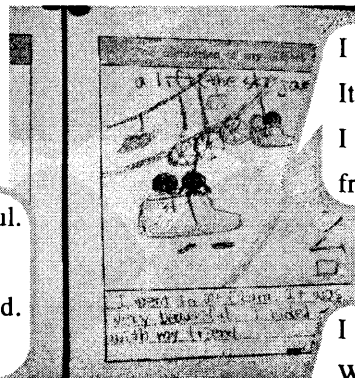
- 初めてだったのでワクワクしてました。入って席に着くと窓が小さなバスのような気がしました。滑走路に行くまでの早さがゆっくりだったので、こんなんでは飛べんやろかと思っていると、いきなり止まりました。そしていきなりスピードが上がり、羽根がぐらぐらしてきて「うわあ、折れそう!」とドキドキしているとみんなも声を上げていました。そしてエレベーターが降りる時のような感覚でふわっと浮いた。感動。イヤホンみたいなのがあって耳が痛くなるのを防ぐためのものかなと思っていたら、音楽を聴くためでした。トイレがあるのもビックリした。ジュースを頼むのも初めてで・・・—女子—

7 修学旅行報告会

○英語科により「絵日記」の廊下掲示



While I was rafting ,I saw
Mt.Youtei.
It was very beautiful!



I went to Mt.Okura.
It was very beautiful.
I road a lift with my
friend.

Mt.Youtei. is very beautiful.
When I will adaut,
I want Hokkaidou,and.
Niseko



I took meny pictures.
With my friends,and
Hokkaido people.
It were very important.



○修学旅行報告会

発表活動では、これまで学習してきたパワーポイントによる発表に加え、「班ごとに工夫してみんなに感動を伝えよう！」のテーマで取り組みました。

①デジタル写真でホテルや体験活動の様子を報告する生徒



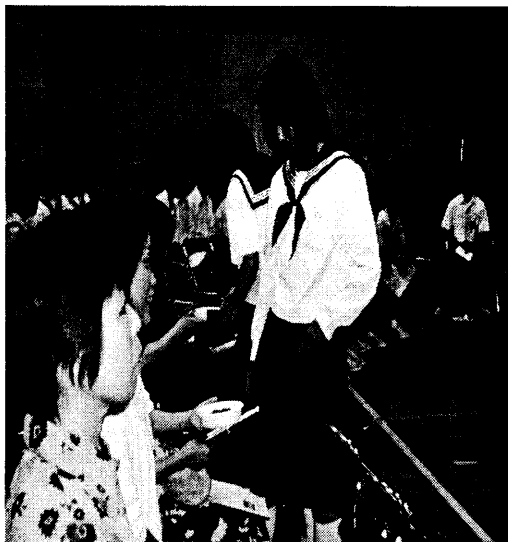
私たちは、感動した写真を引き伸ばし発表しました。
今回は、マイクも使わなかったので大きな声での発表に苦労しました。
分かってもらえたかな？

②自作パネルで小樽の自由行動やラフティングの様子を紹介する生徒



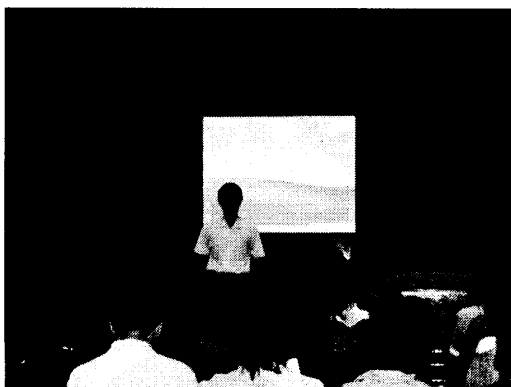
私たちは、小樽の自由行動や札幌の振興協会の発表をパネルにして発表しました。
写真を貼ったり、係の方のコメントを載せたりと大変でしたが、結構うけていたので安心しました。

③北海道での食事を実演し、保護者に試食してもらう生徒

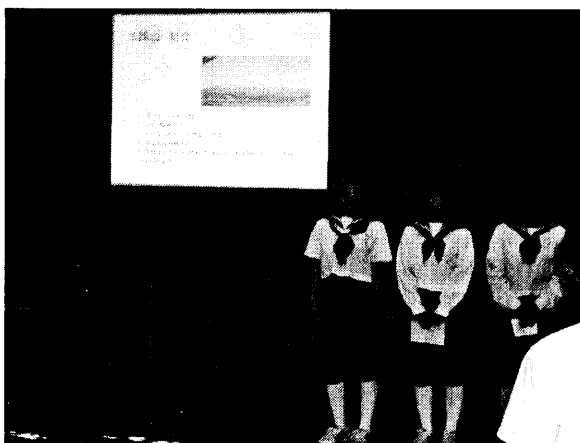


私たちのグループは、一番興味を持った食事についての発表でした。
作って試食してもらいましたが、ちょっと失敗しました。
上の写真はPTA会長が試食しているところです。

④コンピューター（パワーポイント）で福祉活動の用紙を発表する生徒



僕たちの班は、パワーポイントで特にアニメーションに工夫して発表しました。
満足です。



私たちは、パワーポイントでアイヌ文化の発表をしました。2年前の先輩方の資料も使わせていただきました。
特に独特の文様の説明をしました。

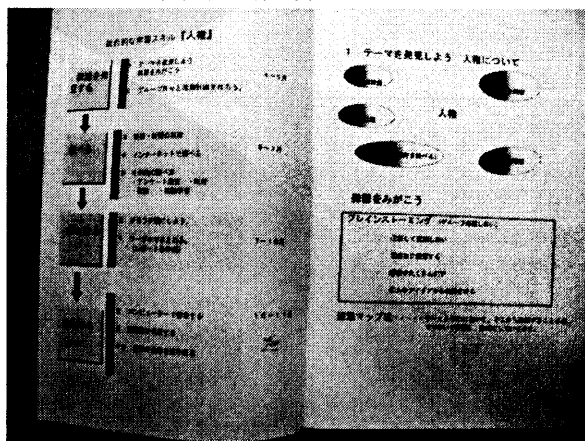
この他、模型による発表やアイヌ衣装での発表等工夫が見られました。

資料。生徒配布物

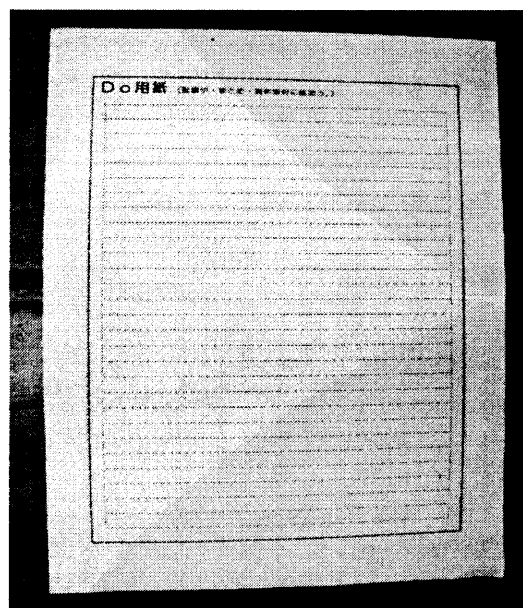


ポートフォリオと1年生オリエンテーション文書

総合的な学習説明文書



「総合的学習について」の中身



D○用紙

(調べてことをまとめる用紙)

総合学習個人カード

月 日 氏名 ()

今日の取り組みを自己評価してみよう。

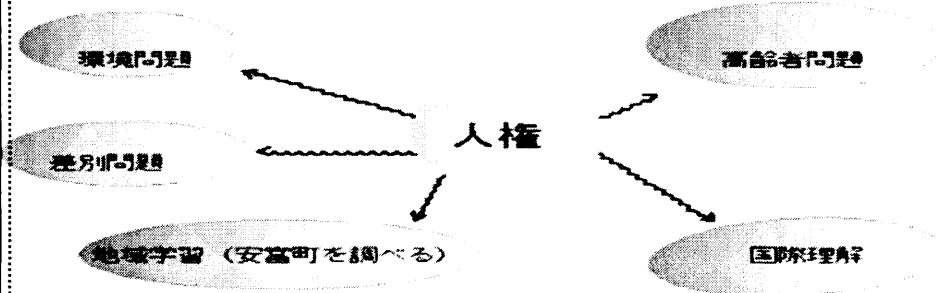
A: よく頑張れた。 B: 努力した。 C: 少しがんばれなかった。

活動内容	
今日の活動に目的を持って取り組めた。	
積極的に問題解決しようとした。	
調べた内容をもとに次のやってみようことを発見できた。	
次週に生かしたいことを書こう。	

個人カード

(毎時間の自己評価用紙)

1 テーマを発見しよう 人権について



発想をみがこう

フレインストーミング (グループの話し合い)

- ①決して批判しない
- ②自由に発想する
- ③数をたくさん出す
- ④人のアイデアから発展させる

連想マップ法・・・テーマを中心において、そこから連想することを繰り返して展開し、図式にしています。

『総合的な学習』内1. 全体計画

計画2			
年度	月		
2003	9	オリエンテーション	○2003年度後期総合コンセプト説明
	10	グループ活動	○グループ分け ○グループ計画作成 ○調べ学習 ・制度、施設、実態等
	11	全体活動	◎福祉に関する共通学習会
	12	グループ活動	○調べ学習 ・体験活動、アンケート活動等
	1	全体活動	◎福祉に関する全体活動
	2		○1次まとめ ・冊子まとめ
	3	修学旅行計画	○修学旅行に関して福祉と関連付け計画
2004	4	修学旅行計画	・北海道調べ ・福祉施設調べ
	5	修学旅行実施	○修学旅行まとめ
	6	まとめ	○兵庫の実態と北海道 ○安富中学校福祉計画作成 ・役場会議
	7	発表活動	○パワーポイントで発表

『総合的な学習』 内2. 全体計画

2003年度 安富中学校2年生 後期 総合的な学習計画

1. テーマ
大テーマ：人権
テーマ：福祉

2. 期間
2003年9月～2004年7月

3. 計画1：
インターネット等調べ活動→実体験活動→まとめ活動→広報活動
→発表、インターネット、メール、ワープロ、パワーポイント

☆三領域について、マクロな目（世界では、日本では）とミクロな目（安富では）で活動する。

☆Plan→Do→Seeの実施

『総合的な学習』内3. 説明

発表とまとめ 2002. 10. 16

発表会の運営について

発表の手順

1)発表グループあいさつ	1分	(司会者)
2)発表	8分	(分組者)
3)質疑応答	2分	(司会者)
4)発表感想	1分	(司会者)
入れ替わり	2分	

発表内容について

つたえる側

自分のつたえたいことは何なのかはっきりさせよう！
よく分かる説明の仕方 ポイント15

- ポイント① 奥ごと読むのではなく、大切なことをまとめてつたえる。
- ポイント② 「まず」「次に」「最後に」など順序よくつたえる。
- ポイント③ 「たとえば」の身近な例を挙げる。
- ポイント④ 難しい言葉はやさしくくたいてつたえる。
- ポイント⑤ グラフ、表、簡易書きなど、文章以外の方法でもつたえる。
- ポイント⑥ グラフや表の数値から分かることをつたえる。
- ポイント⑦ 「質問」を予想する。
- ポイント⑧ 発表よりたくさんの情報を手元に置いておく。
- ポイント⑨ 声の大小、はやさ、間、強弱を工夫しよう。
- ポイント⑩ 視線を意識しよう。
- ポイント⑪ グループで役割分担してつたえよう。
- ポイント⑫ 「みなさんはどう思いますか？」「みなさんはそう思いませんか？」
聞いている人にといかけてみよう。
- ポイント⑬ 聞いている人の表情や反応を見ながらつたえよう。
- ポイント⑭ 「こうなっています(現状)」「なぜ(原因)」「これから(今後)を
はっきりさせよう。
- ポイント⑮ 調べて分かったこと、分からなかったこと、新たに疑問ができた場
合はそのことをつたえよう。

聴き側

メモをとりながら大事なことをおとさないようにしましょう！
相手の表情を見ながら反応しながらきこう。
わかりにくいことは途中で質問しよう。

『総合的な学習』内4. 発表（プレゼンテーション）の仕方

8. 成果と課題

この度、学力向上フロンティア事業の推進校に選ばれ、本校での少人数授業のあり方として『指導形態』と『評価方法』、『総合的な学習』について取り組んできました。それぞれの試行については、日々の生活指導、学習指導また進路指導の中で、一定の成果を得られつつあるように思う。

『総合的な学習』では、IT 機器の操作に慣れることで情報量を格段に増やすことができたし、プレゼンテーションの方法、自主性や積極性も出てきたように思える。また、「今日的な課題」について体験を多く取り入れ、身近な問題としてとらえることができつつあるように思える。本校が推進している「plan→do→seeによる活動形態」が生徒自身にも浸透してきたように思える。

が、より以上の成果を得るためには以下の点について再考すべきと考える。

ねらいの明確化

生徒の実態・課題を整理し、状況に即した、系統的な計画を立てねらいをしっかりと押さえ、それぞれの活動場面での評価規準・基準を明確化することが必要と思える。

継続と進化

5年間、10年間と期間を設定し、その中で発生した課題や生徒の状態の変化に伴って修正、進化・発展させることが大切と考える。

系統的な計画

コンセプトマップを作成し、系統的な計画や他教科、他活動との横断的な計画が必要と考える。

体験的な活動から経験的な活動に

修学旅行で実施する体験活動をそのまま終わらせることなく心が動き、そのことがそれぞれの生徒の中で経験化しパラダイムの変換がおこるような活動に進化させることが望ましいと考える。

参 考 資 料

近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ

近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ

(回数の○印は全国研究大会を兼ねる)

	年月/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
①	昭和 59. 7. 6 大阪市教育 青年センター	主題 「今後の修学旅行・自然教室・野外活動を考える」 発表・山城 真（西宮市塩瀬中教諭） 「日常的教育活動を生かした本校の校外学習」 講演 高橋哲夫 （文部省初等中等教育局教科調査官） 「学校教育の今日的課題と修学旅行・自然教室」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県各教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
②	昭和 61. 11. 14 兵庫県 私学会館	主題 「集団宿泊指導の積み重ねによる修学旅行」 発表・坂東鐵二（西宮市甲陵中教諭） 「1年生からの校外学習の積み重ねによる修学旅行」 ・雨宮 章（長岡京市四中教諭） 「生徒の自主的・実践的態度を育てる修学旅行・野外活動」 講演 高橋哲夫 （文部省初等中等教育局教科調査官） 「特別活動の充実と今後の修学旅行のあり方」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県各教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
3	平成 1. 1. 20 京都市 アバンティアー ・ホール	主題 「生徒の自主性を生かす修学旅行」 発表・松宮 功（長岡京市三教諭） 「生徒が自主的、意欲的にとりくむ修学旅行。自分たちで考え、守るルール アンド マナー」 ・栗原重和（高月中教諭） 「生徒の自発性を促す修学旅行」 -学級活動、班を取り入れて- 講演 北條直樹 （全修協大阪事務局修学旅行部長） 「修学旅行の基本問題と今日的課題」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 京都府教育委員会 京都市教育委員会 大阪府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
④	平成 1. 12. 1 大阪府 教育会館	主題 「特色のある修学旅行生徒の自主性を生かして」 発表・荻野南子（西宮市深津中教諭） 「生徒たちの創意工夫を生かした修学旅行。リーダーの育成と班別自由行動」 ・林 一幸（富田林市三教諭） 「集団作りの中の修学旅行。自主性の創造をめざして」 講演 高橋哲夫 （文部省初等中等教育局教科調査官） 「個性を生かす教育と修学旅行」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 大阪府教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
5	平成 2. 12. 3 奈 良 県 春 日 野 荘	主題 「生徒の自ら学ぶ意欲を高め、創意を生かす修学旅行」 発表・東 康彦（和歌山市伏虎中教諭） 「創意ある班別自主活動を取り入れた旅行」 - 都内散策活動を通して- ・南 昌克（奈良県高田中教諭） 「自ら学び行動する生徒の育成をめざす修学旅行」 - 生徒の主体的活動を通して-	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
6	平成 3. 11. 12 滋 賀 県 鳥 の 浜 荘	主題 「これからの修学旅行の自主活動と教師の関わり」 発表・地村 卓（大津市日吉中教諭） 「3年間を通した主体性を考える修学旅行」 ・大木義文（長岡三教諭） 「修学旅行を成功させるための学年代議員を中心とした取り組み」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
7	平成 4. 11. 27 神 戸 市 総 合 教 育 セ ン タ ー	主題 「視野を広げ、心豊かな人間性を育成する修学旅行」 発表・脇坂健一郎（美原西中教諭） 「よく食べ、よく学び、よく遊ぼう」 ・平位 隆明（姫路市東光中教諭） 「心の豊かさを求める修学旅行」 講演 鹿嶋研之助 （文部省初等中等教育局教科調査官） 「特別活動における修学旅行の意義」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 神戸市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
8	平成 5. 11. 19 和 歌 山 県 紀 の 国 会 館	主題 「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行」 発表・藤田辰男（奈良県三郷中教諭） 「自ら学び、主体的に創造する修学旅行」 - 一日班別自主活動を通して - ・天野 久（和歌山県妙寺中教諭） 「班別活動を生かした仲間づくり」 - 自主自立をめざして -	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
9	平成 7. 1. 20 京 都 府 長 岡 京 市 中 央 公 民 館	主題「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、 心豊かな人間性を育成する修学旅行」 発表・草野圭夫（大津市南郷中教諭） 「生徒一人ひとりが体験活動を通して、 喜びと感動を実感できる修学旅行を めざして」 ・小畠恒夫（亀岡市南桑中教諭） 「最上級生としての自覚を促す修学 旅行の取り組み」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 長岡京市教育委員会 向日市教育委員会 大山崎町教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
⑩	平成 7. 11. 28 大 阪 府 教 育 会 館	主題「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を 高め、心に残る修学旅行を求めて」 発表・中山 宏、伝刀永一 （河内長野市長野中教諭） 「生徒の主体性を重んじた修学旅行の 創造」 ・江口直宏（川西市東谷中教諭） 「修学旅行を通して自治・学習・友情 を高める」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省、都道府県教育長協議会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪市教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
11	平成 8. 11. 22 奈 良 県 春 日 野 荘	主題「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を 高め、心に残る修学旅行を求めて」 発表・岩崎 篤（和歌山県愛徳中学校長） 「学ぶ喜びを求めて」 ・佐藤政幸（大和高田市片塩中教諭） 「大規模校における修学旅行実施に 伴う班別活動の導入について」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
12	平成 9. 12. 5 滋 賀 県 大津市生涯 学習センター	主題「体験を重視し、生きる力を育成 する修学旅行」 発表・吉川祥子 （長岡京市長岡第三中教諭） 「個に応じた体験学習を取り入れ た修学旅行」 ・浦谷政行（大津市栗津中教諭） 「ぐるっと 200-自ら計画する修学 旅行を求めて」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
⑬	平成 10. 11. 20 兵 庫 県 西 宮 市 フレンテホール	主題「体験を重視し、生きる力を育成する 修学旅行」 発表・寺田孝志（堺市浜寺南中教諭） 「生徒の自主性を生かす修学旅行」 －実行委員会活動を中心に－ ・鶴山実紀子（西宮市山口中教諭） 「ウォークラリーから始めた修学旅行 行班別行動の試み」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部省 都道府県教育長協議会 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 西宮市教育委員会 全国中学校長会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
14	平成 11. 11. 22 和 歌 山 県 アバローム 紀 の 国	主題「体験を重視し、生きる力を育成する 修学旅行」 発表・山本 剛（五條市五條中教諭） 「生徒の自主性を育む修学旅行の在 り方」 －奈良県における修学旅行と課題－ ・松本茂和（田辺市上秋津中教諭） 「生徒の主体性を生かす修学旅行」 －実行委員会活動を中心に－	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
15	平成 12. 12. 14 京 都 府 長岡京市立 中央公民館 市民ホール	主題「体験を重視し、生きる力を育成する 修学旅行」 発表・清水貴博（彦根市立彦根中教諭） 「生きる力につなぐ修学旅行の取り 組み」 ・岩佐好正（伊根町立本庄中教諭） 「地元でできない体験から学ぶ修学 旅行を目指して」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 長岡京市教育委員会 日向市教育委員会 大山崎町教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
⑭	平成 13. 11. 22 大 阪 府 たかつ ガーデン	主題「体験的学習を通して生きる力を育成 する修学旅行」 発表・中村勝成 田中 繁 （松原市立松原第二中学校教諭） 「総合的な学習にリンクさせた修学 旅行」 ・岡田みどり（伊丹市立東中学校教諭） 「自立をめざす三年間をみすえた学 校行事づくり」	主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 文部科学省 全日本中学校長会 都道府県教育長協議会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 京都府教育委員会 協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
17	平成 14. 11. 15 奈良県 春日野荘	主題「みんなで創ろう 21 世紀の修学旅行」 発表・中村恭輔・中嶋昭夫 （奈良市立春日中教諭） 「学び、育てよう” 沖縄のこころ”」 ー 総合的な学習を通してー ・二本松芳彦 （和歌山県日高郡 南部川村立清川中教諭） 「(平和・交流・自然) 体験旅行」	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会 後援 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 奈良市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会
18	平成 15. 11 . 14 滋賀県 大津市 生涯学習 センター	主題「みんなで創ろう 21 世紀の修学旅行」 発表・小島照代 （福知山市立南陵中学校教諭） 「九州への修学旅行」 ー 姉妹都市、島原との交流を通してー ・橘 香洋 （守山市立守山北中学校教諭） 「世界自然遺産の島・屋久島への旅」 ー 生徒が育つ修学旅行ー	主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学露光研究協会 後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会

第 19 回近畿地区中学校修学旅行研究大会 研究要録

平成 16 年 11 月 18 日

発 行 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

Tel : 06-6202-6500 fax : 06-6202-8688

印 刷 有限会社 誠友社

大阪市中央区内淡路町 1 丁目 3-7

Tel : 06-6941-4500 fax : 06-6941-3986
